グローバル CCS インスティテュートと国際標準化機構（ISO）

グローバル CCS インスティテュートは、国際標準化機構（ISO）の二酸化炭素回収、輸送、及び地中貯留に関する技術委員会（TC/265）のカテゴリーA リエゾン機関である。

ISO/TC 265 は設計、建設、運用、環境計画と管理、リスク管理、定量化、監視と検証の標準化、及び完全に統合された CCS ソリューションの関連活動を監督するために 2012 年に制定された。本紙は、ISO の作業プログラムに当インスティテュートが戦略的に関与することが最終的に CCS ソリューションの展開を加速する手助けになることについて説明している。

ISO/TC265 の目標は、CCS を通じて排出削減の促進を強化することである。現在、議決権を持つ参加（「P」）国が 20 カ国、議決権を持たないオブザーバー（「O」）国が 8 カ国とカテゴリーA リエゾン機関（当インスティテュートを含む）7 機関が参加している。

18 カ国の「P」メンバーは同国の「審議委員会（mirror committees）」によってサポートされており、通常、主な交渉問題に関して自国の位置を定式化するためのローカライズされた専門知識を有する。

さまざまな「P」国が主導する 6 つの作業部会（WG）が存在し、テクニカルレポート（情報製品）からすべての WG の最終目標である認定基準に至るまで、正式承認されたさまざまな ISO の基準を開発することで作業プログラムを実施している。6 つの WG には、次の作業部会が含まれる。

- WG1：回収（日本招集）
- WG2：輸送（ドイツ招集）
- WG3：貯留（カナダ／日本共同招集）
- WG4：定量化と検証（中国／フランス共同招集）
- WG5：横断的課題（フランス／中国共同招集）
- WG6：石油増進回収（米国／ノルウェー共同招集）

多くの CCS ソリューションは、まだ実証段階にあるため、一部の利害関係者はこの取り組みを時期尚早であると考える可能性がある。標準化の主な目的は、CCS 関連取引に対するすべての技術的障壁を排除して、CCS 関連商品やサービスの商取引のための共通基盤を促進することであると念頭に置いておくことが重要である。CCS 運用に関して、極端な規範条件を課すということではない。

品質保証と標準化は、CCS ソリューションにとって安定し予測可能な市場を確保する上で決定的に重要なステップである。国際的に採用された基準は、技術上及び運用上のリスクを軽減し、CCS の実績と容認に関するコミュニティ、企業、市場の信頼を高める。ほかの潜在的な利点は次の通りとなる。

- CCS プロジェクトを安全に実施、運用するための手順、システム、及び技術の展開、統合と相互運用性の促進
- 国際的な知識の共有、技術革新、協力、局所的な協調の促進
- CCS が環境に配慮し安全な技術であるという公的な保証の提供
- 政府や機関による準備の増強、継続性のある管理、文化及びベストプラクティス

ISO 規格の開発は自主的に適用する非政府による作業である。政府が政策や規制に ISO を参照することができる一方、民間企業は国際的なベストプラクティスとして ISO を運用することができる。

ISO/TC 265 は他の制定された関連する ISO/TC から分離されず、以下の ISO/TC と正式に関連づけられている。

- 67（海洋構造物）
- 207（環境マネジメント）
- 27（固体鉱物燃料）
- 234（ガス地中貯留）

ISO に関する作業についてさらに論じたい場合、ISO のウェブサイトをご覧になるか、マーク・ボナー（mark.bonner@globalccsinstitute.com）までお問い合わせください。

お問い合わせは、

GLOBALCCSINSTITUTE.COM、または電子メールでINFO@GLOBALCCSINSTITUTE.COMまで

この出版物は知識共有の目的でグローバルCCSインスティテュートが刊行したものです。もし当翻訳の一部が出典元と差異があった場合は、出典元に拠ります。

© Global Carbon Capture and Storage Institute Ltd 2015